

NEWS RELEASE

No. 24-14

2024年12月26日

(公財)損害保険事業総合研究所

損保総研レポート第149号を発刊し、以下のレポートを掲載しました。

- ◆ 組込型保険 (Embedded Insurance) の展望と課題—欧米の事例を中心に—
- ◆ 電気自動車 (EV) の普及に伴うリスクと保険—諸外国における事例をもとに—

公益財団法人 損害保険事業総合研究所 (理事長 後藤 浩之) では、研究員による調査研究の発表の場として機関誌「損保総研レポート」を定期刊行しています。

今号 (第149号) では、次のレポートを掲載するとともに、海外の金融・保険市場の動向を紹介しています。

<レポート>

◆組込型保険 (Embedded Insurance) の展望と課題—欧米の事例を中心に—
(主席研究員 渡部 美奈子)

デジタル化の進展により、新たな保険販売形態の1つとして、2020年頃から組込型保険 (Embedded Insurance) が注目されるようになりました。組込型保険という用語自体は比較的新しいものの、保険販売の形態としては、過去から存在している形態で、例えばクレジットカード付帯の旅行保険などが挙げられます。

本稿では、デジタル化により進展してきた保険商品販売の事例の1つとして、欧米における組込型保険の直近の動向を説明しています。組込型保険には、商品やサービスと一体化したシームレスな保険の導入、顧客データの活用、効率的な業務運営などにより、顧客体験の向上につなげることができるメリットがあり、先進技術等の進展もあいまって、販売方法の変革につながる可能性があるとされています。

組込型保険の種類や販売形態、欧米の保険会社による具体的な取組事例を紹介するとともに、将来の組込型保険市場の成長予測、および保険会社にとっての課題や対応についても説明しています。

◆電気自動車 (EV) の普及に伴うリスクと保険—諸外国における事例をもとに—
(主任研究員 木村 紗英)

近年ガソリンやディーゼル等の化石燃料を使用しない、クリーンな移動手段としてバッテリーのみを動力とする電気自動車 (EV) が注目されています。中国を筆頭に世界各国でEV普及に向けた政策が実施されており、普及率が急速に高まっています。

一方で、EVの利用に関しては様々なリスクが指摘されています。従来の自動車と異なりバッテリーを使用することによる、走行時、事故発生時、および輸送時におけるリスクが想定されており、これらに起因する自動車保険に関する課題も挙げられています。

本稿では、主要国における EV の普及状況と EV の所有・使用・管理において想定される、もしくは既に発生しているリスクについて説明した後、諸外国の保険会社や保険ブローカー等による、EV 向け保険に関する取組事例を紹介しています。

<その他>

◆ **金融・保険市場におけるトピックス**

- 国際・規制動向：「IAIS が 2025 年から 2029 年までの戦略計画を公表」
- 欧州・規制動向：「保険ヨーロッパが意匠（デザイン）に関する EU 指令・規則への修理条項導入を歓迎」
- 米国・自然災害：「米国で相次ぎ発生した巨大ハリケーンによる損害と影響」
- 米国・市場動向：「サイバー保険の重要性について保険会社が最新の調査結果を発表」
- タイ・規制動向：「タイ保険監督当局がオープンデータ政策を推進」

損保総研レポートは、当研究所ウェブサイトより、PDF 形式で無償にて閲覧・ダウンロードいただけます。（<https://www.sonposoken.or.jp/reports/>）

本件に関するお問い合わせ先

〒101-8335 千代田区神田淡路町 2 - 9

公益財団法人 損害保険事業総合研究所
研究部

（e メール：kenkyubu3@sonposoken.or.jp）

この資料は、保険関係業界紙各社へ同時に配付しております。

損保総研レポート第149号 目次

○組込型保険（Embedded Insurance）の展望と課題－欧米の事例を中心に－

（執筆者 主席研究員 渡部 美奈子）

《目次》

1. はじめに
2. 組込型保険とは
3. 保険会社の取組事例
4. 組込型保険市場の成長予測
5. 課題等
6. おわりに

○電気自動車（EV）の普及に伴うリスクと保険－諸外国における事例をもとに－

（執筆者 主任研究員 木村 紗英）

《目次》

1. はじめに
2. 諸外国におけるEV普及状況
3. EVに想定されるリスクと課題
4. 諸外国におけるEV向け保険に関する取組み
5. おわりに

以上